

2016年2月7日
日本板硝子株式会社

2017年3月期第3四半期決算に関する主なご質問

- Q: 2017年3月期第3四半期末では、第2四半期末より円安に振れているのに決算説明資料の営業利益差異分析において、「為替の変動」のマイナスが増加した理由は？また第3四半期だけを取り出すと、販売数量/構成差が前年同期比マイナスのようだが、その理由は？
- A: 営業利益差異分析は、第3四半期までの累計営業利益を前年同期と比較しています。「為替の変動」マイナスの拡大理由は、前年同期に対して累計平均ではまだ円高であるためです。「販売数量/構成」のマイナスは、北米自動車用ガラス事業での数量増などを、南米および日本の建築用ガラス事業でのマイナスが上回ったためです。
- Q: A種種類株式が普通株式に転換される条件は？
- A: 2020年6月までは原則として(転換制限解除事由にあたる場合を除いて)、A種種類株主は普通株式を対価とする取得請求権を行使できず、希薄化を極力抑える設計です。それ以降はオプションとして行使選択ができますが、当社はMTPフェーズ2を着実に実行することで、A種種類株式の金銭償還を目指しています。
- Q: 2017年3月期第3四半期末の自己資本は第2四半期末より改善したのに、今種類株式発行をする意図は？またなぜ種類株式の発行を選択したのか。
- A: 外部環境のボラティリティが高く、早期に財務基盤の安定化を図ることとしました。また、借入削減、金融費用圧縮の前倒しおよびVA化投資枠の確保を狙っています。選択肢については、種々検討しましたが、当社の財務状況、調達市場の状況等を総合的に勘案し、A種種類株式の発行を選択しました。
- Q: 第2四半期まで営業利益の進捗に余裕があったが、第3四半期の数字は伸び悩み。為替も円安に振れている中、第4四半期に向けて会社の見解は？
- A: 投入コストについて、第2四半期までの追い風が減少してきている一方、円高のマイナス影響を相殺してきた操業効率の改善は今後も続きます。年度業績予想の達成に注力してまいります。
- Q: MTPフェーズ2の目標年度である2020年3月期の売上計画は？
- A: ガラス市場全体の成長に加えて、VA(高付加価値)化によるミックス改善による増分を見ており、6,000億円台半ばの売上想定です。
- Q: 2020年3月期までに年間金融費用50億円を削減することだが、来期(2018年3月期)から金融費用は減少するのか？
- A: 借入総額の減少や、借入条件の改善等により、来期から減少の一部が具現化するよう取り組んでいます。

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(欧州、日本、北米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。